

## ■ 編集だより

## 編集後記

今まさにラグビーのワールドカップが開催されています。ロシア戦に勝って日本中が熱狂している時にこの文章を書いています。さらに来年にはオリンピックが開催されます。このような大きな大会で、日本人選手が優勝すると、日の丸を背景に「君が代」が演奏されます。日本人にとって、非常に感動する場面です。以前より「君が代」の生い立ちに関心がありまして少し調べてみました。国歌「君が代」の生い立ちについて報告させていただきます。君が代は、人々の年寿を賀する歌であり、歌詞は古今和歌集まで遡るものであります。千年以上の歴史を有するたいへん古いものです。鎌倉時代以降神事にも仏会にもよく唱えられていたようです。明治の時代になり、近代国家としての姿を整える際に、国歌が必要であるとのことで、「君が代」が国歌として採用されました。採用には日露戦争で有名な、薩摩の大山巖元帥が関係していたようです。薩摩ではおめでたい席で琵琶歌「蓬莱山」に引用されている「君が代」がよく語られていたようです。このように歌詞は古くから存在していたのですが、メロディーがないことが問題で、明治13年に今のメロディーが付けられたようです。作曲は大阪の天王寺生まれの林広守という方で、宮内省雅楽部に所属していました。このような歴史を有する「君が代」を深く吟味しながら、日本精神神経学会の八千代にのぼる繁栄と、ワールドカップや東京オリンピックにおける日本人選手の活躍を祈念しようではありませんか。

またオリンピック特にパラリンピックに関して、われわれ精神科医はART BRUT（アール・ブリュット）を普及させようではありませんか。パラリンピックのめざす多様性や誰もが個性や才能を発揮できる精神と、既成の概念にとらわれず独自の発想や手法で表現するART BRUTには、共通する精神があるように思います。ART BRUTとは「生の藝術」を意味し、芸術教育を受けていない人々の内的衝動性に駆られて作り上げられた芸術を言います。ART BRUTの作者には当然のことながら知的障害や精神障害（主に統合失調症）の人々が多く含まれます。東京都が中心となって普及に努めているようです。本学会誌PCNの表紙が九州大学の平野羊嗣君の活躍で、2018年からART BRUTの作品で構成されたいへん好評を博しています。じっくり手に取って見ていただきたいと思います。病跡学の大家である元自治医科大学教授宮本忠雄先生の「精神障害、特に統合失調症患者の体験的世界はけっしてわれわれ正常人の世界とは断絶した、異質な、ネガティブなものではなく、われわれにうつつらとしか体験しえないものを極めて濃厚に映し出してくれるし、また、時には文化の創造に寄与するポジティブな局面を示すこともあって、いかえれば、それは必ずしも生の虚像としてとどまるものでなく、この上ない実像として現代人の日常的な視野に立ちほだかりもする（一部改変）」という素晴らしい文章を味わいながらART BRUTをじっくりとご賞味ください。

「君が代は千代に八千代にさづれ石のいはとなりて苔のむすまで」

木下利彦